

平成21年（2009年）

家計調査報告書

－ 富山市の家計 －

富 山 県

本書の概要は統計調査課のホームページでもご覧になれます。

<http://www.pref.toyama.jp/sections/1015/index2.html>

は し が き

この報告書は、総務省統計局が全国の世帯を調査対象として毎月実施している家計調査の中から、富山市分について平成21年の調査結果をまとめたものです。

最近の経済活動の中で個人消費の動向がますます注目されておりますが、国民生活における家計収支の実態を明らかにすることを目的とした本調査の結果が、関係各方面の基礎資料や研究等に活用いただければ幸いに存じます。

なお、調査の実施に際して、ご協力いただきました世帯及び調査関係者の方々に厚くお礼申し上げますと共に、今後ともより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

富山県経営管理部長 出口 和宏

目 次

I 利用者のために	1
II 富山市の家計収支	
1 総世帯の家計	9
(1) 消費支出の概況	9
(2) 消費支出の内訳と対前年実質増減率	10
(3) 消費支出の費目別構成比	13
2 総世帯のうち勤労者世帯の家計	14
(1) 実収入の概況	14
(2) 消費支出の概況	15
3 全国からみた富山市の特徴（二人以上の世帯）	16
(1) 消費支出の概況	16
(2) 主な費目の特徴	17
4 全国からみた富山市の特徴（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）	23
(1) 実収入の概況	23
(2) 可処分所得の概況	24
(3) 消費支出の概況	24
(4) 平均消費性向、黒字率、平均貯蓄率等	24
III 富山市の貯蓄・負債（二人以上の世帯）	
1 貯蓄の状況	25
2 負債の状況	26
IV 統計表	
第1表 富山市の1世帯当たり年平均1か月間の支出（総世帯）	30
第2表 富山市の1世帯当たり年平均1か月間の収入と支出（総世帯のうち勤労者世帯）	34
第3表 全国の1世帯当たり年平均1か月間の支出（総世帯）	40
第4表 全国の1世帯当たり年平均1か月間の収入と支出（総世帯のうち勤労者世帯）	44
第5表 富山市の1世帯当たり年平均1か月間の支出（二人以上の世帯）	50
第6表 富山市の1世帯当たり年平均1か月間の収入と支出（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）	54
第7表 全国の1世帯当たり年平均1か月間の支出（二人以上の世帯）	60
第8表 全国の1世帯当たり年平均1か月間の収入と支出（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）	64
第9表 都道府県庁所在市主要指標一覧（総世帯）	70
第10表 都道府県庁所在市主要指標一覧（二人以上の世帯）	71

I 利用者のために

1 調査の目的

家計調査は、国が行う重要な統計として統計法（平成 19 年法律第 53 号）による基幹統計に指定されており、総務省統計局が毎月実施している統計調査である。

この調査は、世帯の得た収入がどのようなものにくら支出されたか、その支出の仕方が収入、世帯人員、年齢、職業など世帯の属性によってどのように異なっているかなど、国民生活における家計収支の実態を把握して、国の経済政策・社会政策の立案のための基礎資料を得ることを目的としている。

2 調査の対象

家計調査は、施設等の世帯及び学生の単身世帯を除いた全国の世帯を調査対象としている。なお、下記に掲げる世帯等も、世帯としての収入と支出を正確に計ることが難しいことなどの理由から除外している。

- (1) 料理飲食店、旅館又は下宿屋（寄宿舎を含む。）を営む併用住宅の世帯
- (2) 賄い付きの同居人がいる世帯
- (3) 住み込みの営業上の使用人が 4 人以上いる世帯
- (4) 世帯主が長期間（3 か月以上）不在の世帯
- (5) 外国人世帯

3 調査世帯の選定

調査対象世帯が全国の世帯の縮図となるよう、統計理論に基づいて世帯を選定している。具体的には、層化三段抽出法により、全国で約 9,000 世帯を無作為に抽出している。

層化三段抽出法とは、3 段階に分けて調査世帯を選ぶ方法である。まず、第 1 の段階では、全国の市町村をいろいろな特性によりグループ（層）に分け、それぞれのグループから一つずつ合計 168 市町村を選ぶ。次に第 2 の段階では、各市町村から調査単位区を無作為に選ぶ。第 3 の段階では、乱数表を用いて調査単位区内のすべての世帯から調査世帯を無作為に選んでいる。

調査単位区は 1 年間継続して調査し、毎月 12 分の 1 ずつが新たに選定した単位区と交替する。調査世帯は、二人以上の世帯については 6 か月、単身世帯については 3 か月継続して調査され、順次、新たに選定された世帯と交替する仕組みになっている。

なお、全国及び富山県の調査世帯数は次のとおりである。

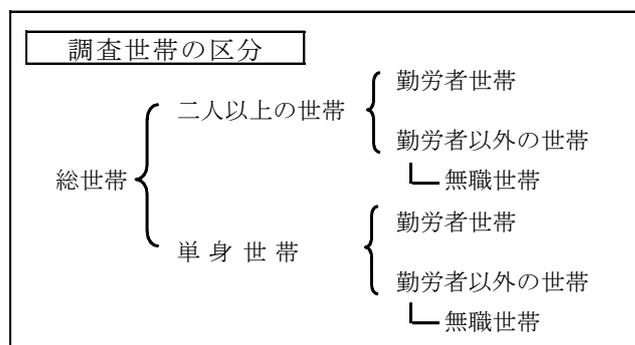
表 1 家計調査 調査世帯数（平成 21 年）

区 分	全 国	富 山 県			
		富山市	射水市	魚津市	計
総 世 帯	8,821	104	26	13	143
二人以上の世帯	8,076	96	24	12	132
単 身 世 帯	745	8	2	1	11

（注）この報告書では、富山市分についてとり上げる。

4 調査世帯の区分

調査世帯は、世帯主（家計上の主たる収入を得ている人）の職業により、次のように区分している。



「勤労者世帯」：世帯主が会社、官公庁、学校、工場、商店などに雇われて勤めている世帯。

ただし、世帯主が社長、取締役、理事など会社・団体の役員である世帯は「勤労者以外の世帯」に含める。

「勤労者以外の世帯」：上記の「勤労者世帯」以外の世帯。例えば、世帯主が自営業者、個人経営者など上記の使用者側にある世帯。

「無職世帯」：「勤労者世帯以外の世帯」のうち、世帯主が無職である世帯。

5 調査事項

調査は、4種類の調査票を用いて行う。

「世帯票」：世帯構成、世帯員の年齢、職業、住居に関する事項

「家計簿」：日々の収入・支出（勤労者以外の世帯（無職世帯を除く。）は支出のみ）、購入数量（二人以上の世帯のみ） ※家計簿の記入は6か月間（単身世帯は3か月間）。

「年間収入調査票」：過去1年間の収入

「貯蓄等調査票」（二人以上の世帯のみ）：貯蓄・負債の保有状況、住宅などの土地・建物の購入計画

6 本書の利用上の留意点

(1) 本書は富山市分についての調査結果をまとめたものであるが、調査世帯数が少ないため、標本誤差が大きいことに留意する必要がある。

なお、標本誤差の影響を少しでも避けるため、項目別、品目別支出額等を全国あるいは他都市と比較する際にはできるだけ3年平均値を、時系列比較においては3年移動平均を用いた。

(2) 本書の中で表示した数値は、表章単位未満を四捨五入しているため、内訳を足し上げても必ずしも合計とは一致しない。

7 用語の説明

(1) 収支項目

家計の収支は消費構造の分析に有用なように、収入については収入源別に、支出については用途別に区分されている。

ア 収入

実収入……いわゆる税込み収入であり、世帯員全員の現金収入を合計したもの。

実収入以外の受取（繰入金を除く）……言わば「見せかけの収入」であり、現金が手元に入るが、一方で資産の減少、負債の増加を伴うもの。

繰入金……前月から持ち越した世帯の手持ち現金。

受取……「実収入」のほか、「実収入以外の受取（繰入金を除く）」、前月からの「繰入金」を含み、「支払」と一致している。

イ 支出

実支出……「消費支出」と「非消費支出」を合計した支出。

消費支出……いわゆる生活費のことであり、日常の生活を営むに当たり必要な商品やサービスを購入して実際に支払った金額。

非消費支出……税金や社会保険料など、原則として世帯の自由にならない支出。

実支出以外の支払（繰越金を除く）……言わば「見せかけの支出」であり、預貯金、投資、財産購入、借金返済など、手元から現金が支出されるが、一方で資産の増加あるいは負債の減少を伴うもの。

繰越金……当月末における世帯の手持ち現金。

支払……「実支出」、「実支出以外の支払（繰越金を除く）」、翌月への「繰越金」から成り、「受取」と一致している。

ウ その他

可処分所得……「実収入」から税金、社会保険料などの「非消費支出」を差し引いた額で、いわゆる手取り収入のこと。これにより購買力の強さを測ることができる。

$$\text{可処分所得} = \text{実収入} - \text{非消費支出}$$

黒字……「実収入」と「実支出」との差であり、マイナスの場合は赤字ということになる。これは「可処分所得」から「消費支出」を差し引いた額とも同じである。

$$\text{黒字} = \text{実収入} - \text{実支出} = \text{可処分所得} - \text{消費支出}$$

貯蓄純増……「預貯金」と「保険掛金」の合計から「預貯金引出」と「保険取金」の合計を差し引いたもの。貯蓄純増 = (預貯金 + 保険掛金) - (預貯金引出 + 保険取金)

(2) 各種比率

エンゲル係数……消費支出に占める食料費の割合であり、生活水準の高低を表す一つの指標となる。

$$\text{エンゲル係数 (\%)} = \text{食料費} \div \text{消費支出} \times 100$$

黒字率……可処分所得に対する黒字の割合。

$$\text{黒字率 (\%)} = \text{黒字} \div \text{可処分所得} \times 100$$

平均貯蓄率……可処分所得に対する貯蓄純増の割合。

$$\text{平均貯蓄率 (\%)} = \text{貯蓄純増} \div \text{可処分所得} \times 100$$

平均消費性向……可処分所得に対する消費支出の割合。

$$\text{平均消費性向 (\%)} = \text{消費支出} \div \text{可処分所得} \times 100$$

実質増減率……名目増減率から消費者物価変動の要素を除いたもの。

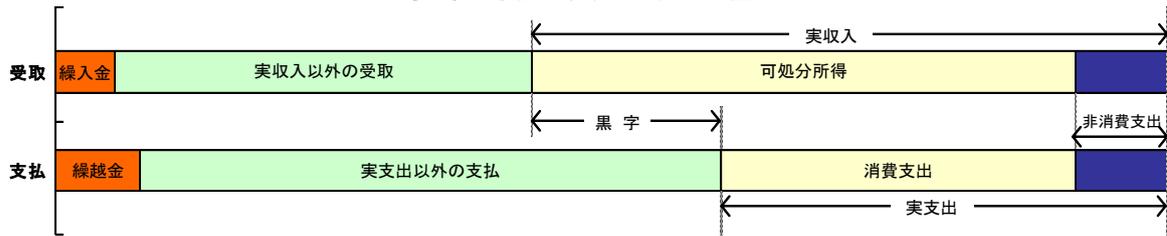
消費支出の各項目ごとの対前年実質増減率は、次式により求めている。

なお、実収入、可処分所得及び消費支出は、消費者物価指数の持家の帰属家賃^{*}を除く総合指数の変化率を用いている。

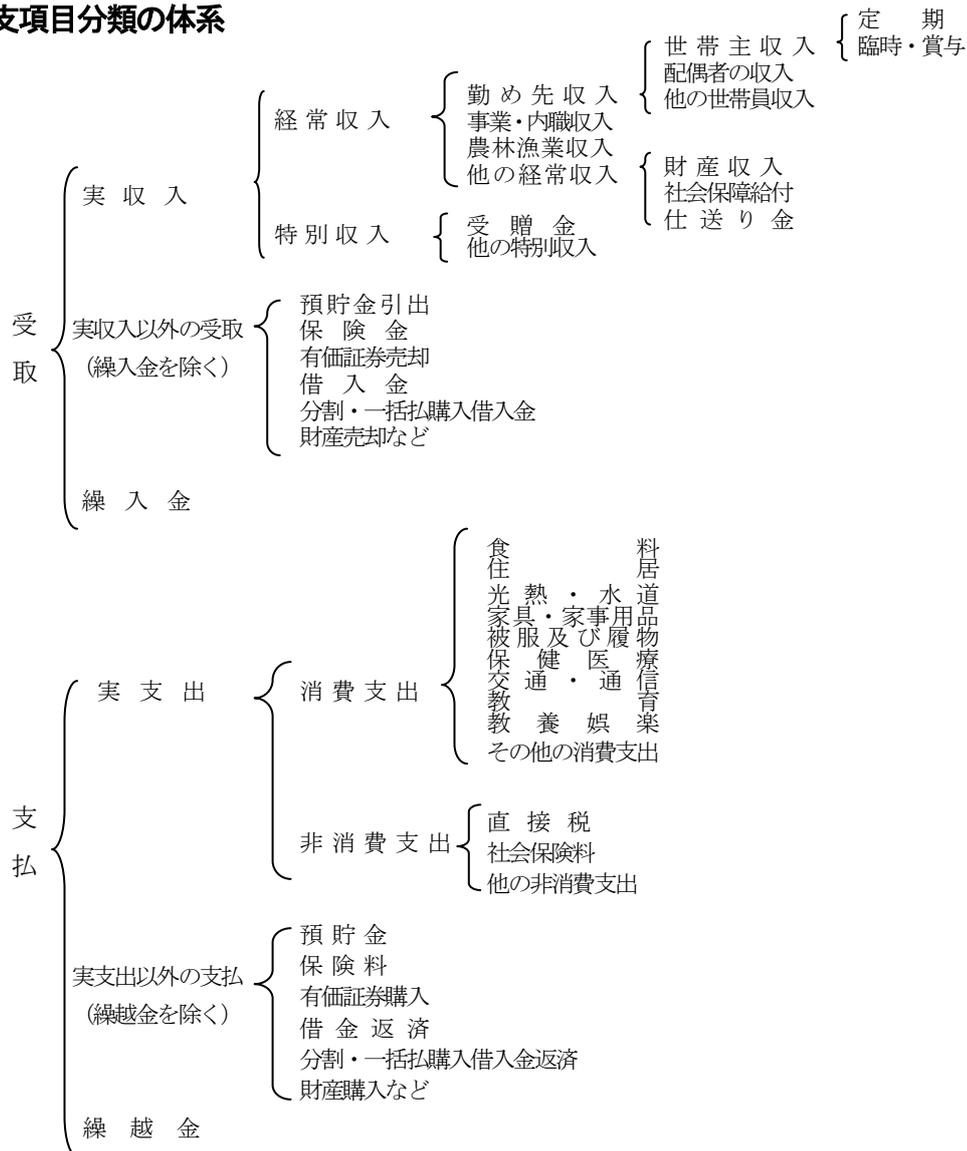
^{*}持家の帰属家賃・持家の住宅を借家とみなした場合、支払われるべき家賃

$$\text{実質増減率 (\%)} = \left[\frac{100 + \text{名目増減率}}{100 + \text{各項目に対応する消費者物価指数の変化率}} - 1 \right] \times 100$$

参考：家計収支のバランス図



8 収支項目分類の体系



支 出 部 門		
項 目	項 目	項 目
5 被 服 及 び 履 物	9 教 養 娛 楽	(再掲) 移 転 支 出 (贈与金+仕送り金)
5-1 和 服	9-1 教 養 娛 楽 用 耐 久 財	(再掲) 経 常 消 費 支 出
5-2 洋 服	9-2 教 養 娛 楽 用 品	(再掲) 情 報 通 信 関 係 費
5-2-1 男 子 用 洋 服	9-3 書 籍 ・ 他 の 印 刷 物	(再掲) 消 費 支 出 (除 く 住 居 等)
5-2-2 婦 人 用 洋 服	9-4 教 養 娛 楽 サ ー ビ ス	非 消 費 支 出
5-2-3 子 供 用 洋 服	9-4-1 宿 泊 料	直 接 税
5-3 シ ャ ツ ・ セ ー タ ー 類	9-4-2 パ ッ ク 旅 行 費	勤 労 所 得 税
5-3-1 男 子 用 シ ャ ツ ・ セ ー タ ー 類	9-4-3 月 謝 類	個 人 住 民 税
5-3-2 婦 人 用 シ ャ ツ ・ セ ー タ ー 類	9-4-4 他 の 教 養 娛 楽 サ ー ビ ス	他 の 税
5-3-3 子 供 用 シ ャ ツ ・ セ ー タ ー 類	10 そ の 他 の 消 費 支 出	社 会 保 険 料
5-4 下 着 類	10-1 諸 雑 費	公 的 年 金 保 険 料
5-4-1 男 子 用 下 着 類	10-1-1 理 美 容 サ ー ビ ス	健 康 保 険 料
5-4-2 婦 人 用 下 着 類	10-1-2 理 美 容 用 品	介 護 保 険 料
5-4-3 子 供 用 下 着 類	10-1-3 身 の 回 り 用 品	他 の 社 会 保 険 料
5-5 生 地 ・ 糸 類	10-1-4 た ば こ	他 の 非 消 費 支 出
5-6 他 の 被 服	10-1-5 他 の 諸 雑 費	
5-7 履 物 類	10-2 こ づ か い	実 支 出 以 外 の 支 払
5-8 被 服 関 連 サ ー ビ ス	(使 途 不 明)	(繰 越 金 を 除 く)
6 保 健 医 療	10-3 交 際 費	預 貯 金
6-1 医 薬 品	10-3-1 食 料	保 険 料
6-2 健 康 保 持 用 摂 取 品	10-3-2 家 具 ・ 家 事 用 品	個 人 ・ 企 業 年 金 保 険 料
6-3 保 健 医 療 用 品 ・ 器 具	10-3-3 被 服 及 び 履 物	他 の 保 険 料
6-4 保 健 医 療 サ ー ビ ス	10-3-4 教 養 娛 楽	有 価 証 券 購 入
7 交 通 ・ 通 信	10-3-5 他 の 物 品 サ ー ビ ス	土 地 家 屋 借 金 返 済
7-1 交 通	10-3-6 贈 与 金	他 の 借 金 返 済
7-2 自 動 車 等 関 係 費	10-3-7 他 の 交 際 費	分 割 払 購 入 借 入 金 返 済
7-2-1 自 動 車 等 購 入	10-4 仕 送 り 金	一 括 払 購 入 借 入 金 返 済
7-2-2 自 転 車 購 入	(再掲) 教 育 関 係 費	財 産 購 入
7-2-3 自 動 車 等 維 持	(再掲) 教 養 娛 楽 関 係 費	実 支 出 以 外 の 支 払 の そ の 他
7-3 通 信	耐 久 財 産	繰 越 金
8 教 育	読 書	
8-1 授 業 料 等	聴 視 ・ 観 覧	
8-2 教 科 書 ・ 学 習 参 考 教 材	旅 行 ツ	
8-3 補 習 教 育	ス ポ ー ツ	
	月 謝 費 ・ つ き あ い 費	
	他 の 教 養 娛 楽	

*** 用途分類と品目分類**

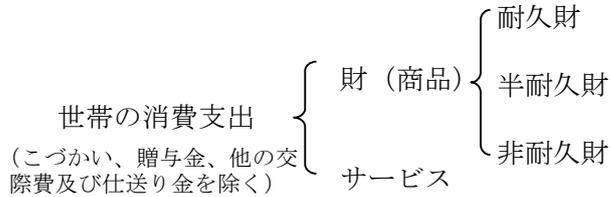
・用途分類とは、購入した商品やサービスを、世帯内で消費するか、他の世帯に贈るかの使用目的に応じて分類する方法である。交際のための費用(世帯外の人に対して支出する贈答、接待費)はまとめて交際費となる。

・品目分類とは、用途に関わらず、同じ商品は同じ項目に分類する方法である。

・この報告書では、「Ⅱ3(2)主な費目の特徴」の一部において品目分類による結果を用いたが、その他は主に用途分類を用いた。

(2) 財・サービス区分

消費支出を商品(財)とサービスに分けて分類したもので、品目分類の結果から組替え集計している。
 商品については、さらに耐久度により耐久財、半耐久財及び非耐久財の3区分に分類している。



支 出 部 門		支 出 部 門	
項 目	項 目	項 目	項 目
消費支出(財+サービス)			
財(商品)	保 健 医 療		
耐久財	耐 久		財
半耐久財	半 耐 久		財
非耐久財	非 耐 久		財
サービス	サ ー ビ ス		ス
	交 通 ・ 通 信		信
食料	耐 久		財
非耐久財	半 耐 久		財
サービス	非 耐 久		財
住居	サ ー ビ ス		ス
耐久財	教 育		財
半耐久財	非 耐 久		財
サービス	サ ー ビ ス		ス
光熱・水道	教 養 娯 楽		財
(非耐久財)	耐 久		財
家具・家事用品	半 耐 久		財
耐久財	非 耐 久		財
半耐久財	サ ー ビ ス		ス
非耐久財	諸 雑		費
サービス	耐 久		財
被服及び履物	半 耐 久		財
半耐久財	非 耐 久		財
サービス	サ ー ビ ス		ス

10 平成21年の家計をめぐる事象

消費支出関係

- ・ ETC搭載の普通車等の土日祝日における高速道路料金の引下げの実施（3月～）
- ・ 環境対応車への買換え・購入に対する減税や補助金の支給といった、いわゆる「エコカー購入支援策」の開始（4月）
- ・ 環境負荷が低いとされるグリーン家電（エアコン・冷蔵庫・地上デジタル放送対応テレビ）を購入すると商品券や電子マネーなどと交換可能なエコポイントが付与される「エコポイント制度」の開始（5月）
- ・ 新型インフルエンザ（A/H1N1型）の発生（国内感染 5月～）
- ・ 初の秋の大型連休「シルバーウィーク」（9月）
- ・ パーソナルコンピュータの代表的な基本ソフト（OS）の新バージョンが発売（10月）
- ・ 格安ジーンズやプライベートブランド商品などの低価格商品の増加

税、社会保険等関係

- ・ 国民年金保険料、介護保険料の引上げ（4月）
- ・ 雇用保険料率の引下げ（4月）
- ・ 厚生年金保険料率の引上げ（9月）
- ・ 個人住民税の公的年金からの引き落とし開始（10月）

その他

- ・ 定額給付金制度の実施（申請期間 3～11月）
- ・ 中国・九州北部豪雨（7月）
- ・ 駿河湾を震源とする地震（8月）
- ・ 月例経済報告で「物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。」と報告（事実上のデフレ宣言）（11月）

（総務省統計局「家計調査年報」より）

II 富山市の家計収支

1 総世帯の家計

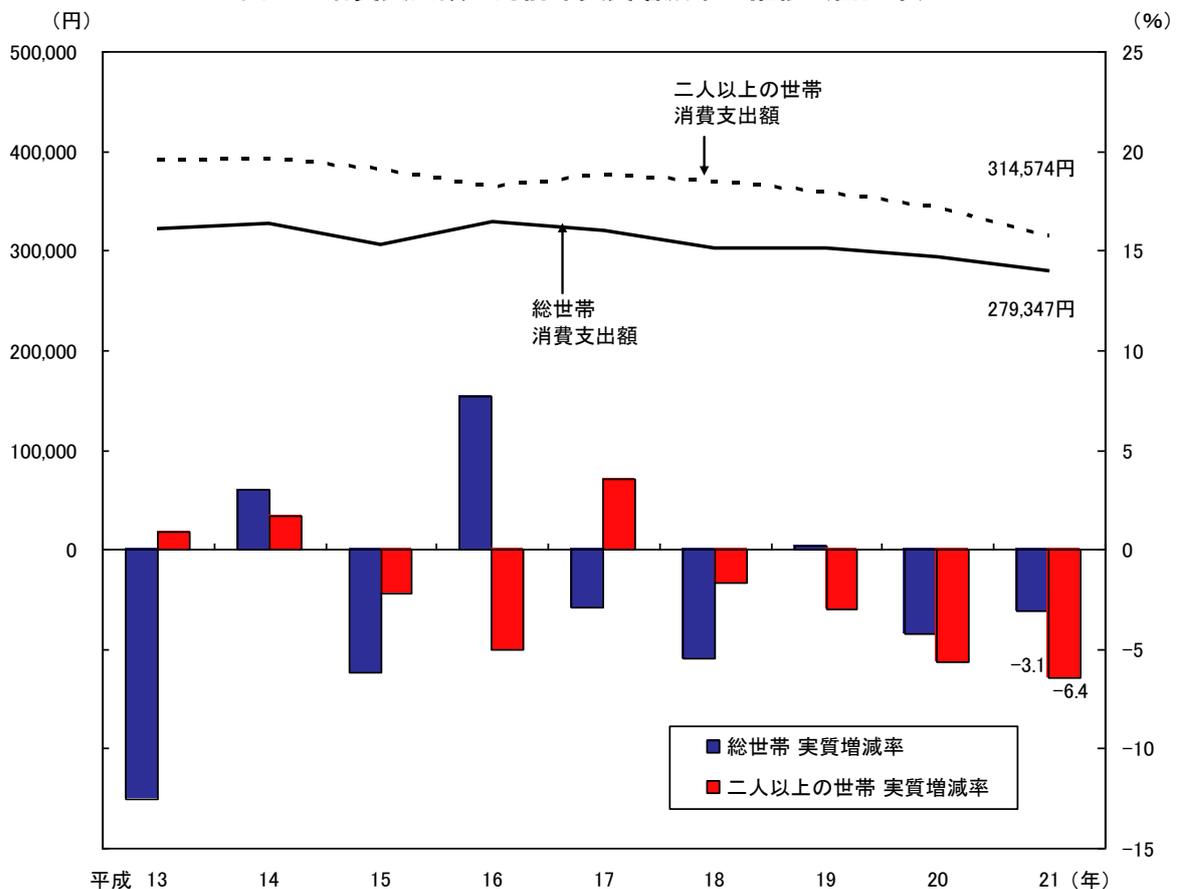
(1) 消費支出の概況

—消費支出は、対前年比実質 3.1%の減少（全国は 1.4%の減少）—

平成 21 年の富山市総世帯の平均世帯人員 2.82 人、世帯主の平均年齢 56.4 歳（全国平均 平均世帯人員 2.49 人、世帯主の平均年齢 55.7 歳）の消費支出は、1 世帯当たり 1 か月平均 279,347 円（全国平均 253,720 円）で、前年に比べ名目 4.9%の減少（全国平均 2.9%減少）となった。また、消費者物価指数が前年比 1.9%の下落（全国平均 1.5%下落）となったことから、実質でも 3.1%の減少（全国平均 1.4%の減少）となった。

総世帯のうち二人以上の世帯の平均世帯人員 3.39 人、世帯主の平均年齢 55.2 歳（全国平均 平均世帯人員 3.11 人、世帯主の平均年齢 55.8 歳）の消費支出は、1 世帯当たり 1 か月平均 314,574 円（全国平均 291,737 円）で、前年に比べ名目 8.2%の減少（全国平均 1.7%の減少）、実質でも 6.4%の減少（全国平均 0.2%の減少）となった。

図 1 消費支出額と対前年実質増減率の推移（富山市）



(2) 消費支出の内訳と対前年実質増減率

—家具・家事用品、保険医療が増加、被服及び履物が減少—

平成 21 年の富山市総世帯の 1 か月平均消費支出（279,347 円）を費目別にみると、次のような特徴がみられる。

ア 食料 <実質増加>

1 世帯当たり 64,035 円で、名目 3.3%、実質 2.4%の増加となった。魚介類、肉類、調理食品、酒類が実質減少となったが、穀類、乳卵類、野菜・海藻、果物、油脂・調味料、菓子類、飲料、外食が実質増加となり、全体として実質増加となった。

イ 住居 <実質増加>

1 世帯当たり 19,213 円で、名目 1.8%、実質 2.5%の増加となった。設備修繕・維持は実質減少となったが、家賃地代が実質増加したため、全体として実質増加となった。

ウ 光熱・水道 <実質増加>

1 世帯当たり 22,806 円で、名目 3.2%の減少、実質 4.2%の増加となった。ガス代、上下水道料が実質減少となったが、電気代、他の光熱（灯油など）が実質増加となったため、全体として実質増加となった。

エ 家具・家事用品 <実質増加>

1 世帯当たり 10,422 円で、名目 24.5%、実質 27.3%の増加となった。家庭用耐久財、室内装備・装飾品、寝具類、家事雑貨、家事用消耗品、家事サービスのすべてが実質増加となった。

オ 被服及び履物 <実質減少>

1 世帯当たり 9,657 円で、名目 13.3%、実質 11.3%の減少となった。シャツ・セーター類、下着類、他の被服（靴下など）が実質増加となったが、和服、洋服、履物類、被服関連サービスが実質減少となったため、全体として実質減少となった。

カ 保健医療 <実質増加>

1 世帯当たり 9,968 円で、名目 11.8%、実質 12.2%の増加となった。医薬品、保健医療用品・器具、保健医療サービスのすべてが実質増加となった。

キ 交通・通信 <実質増加>

1 世帯当たり 38,256 円で、名目 5.1%の減少、実質 1.3%の増加となった。交通（鉄道通勤定期代など）が実質減少となったが、自動車等関係費、通信（移動電話通信料など）が実質増加となったため、全体として実質増加となった。

ク 教育 <実質増加>

1世帯当たり 7,982 円で、名目 3.6%、実質 3.2%の増加となった。

ケ 教養娯楽 <実質増加>

1世帯当たり 26,463 円で、名目 0.8%、実質 2.0%の増加となった。教養娯楽用品、教養娯楽サービス（宿泊料や入場・観覧・ゲーム代など）が実質減少となったが、教養娯楽用耐久財、書籍・他の印刷物が実質増加となったため、全体として実質増加となった。

コ その他の消費支出 <実質減少>

1世帯当たり 70,546 円で、名目 18.6%、実質 17.0%の減少となった。諸雑費（理美容サービスなど）、こづかい(使途不明)、交際費、仕送り金のすべてが実質減少となった。

(注) 「その他の消費支出」、こづかい(使途不明)、交際費及び仕送り金の増減率の実質化には、消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)を用いた。

表1 消費支出の費目別対前年実質増減率（富山市総世帯、二人以上の世帯） —平成21年—

項 目	総世帯			二人以上の世帯		
	月平均額 (円)	実質 増減率 (%)	構成比 (%)	月平均額 (円)	実質 増減率 (%)	構成比 (%)
消 費 支 出	279,347	-3.1	100.0	314,574	-6.4	100.0
食 料	64,035	2.4	22.9	72,146	-0.2	22.9
穀類	6,081	0.4	2.2	7,083	1.6	2.3
魚介類	7,026	-3.8	2.5	8,326	-3.8	2.6
肉類	4,810	-2.8	1.7	5,898	-3.0	1.9
乳卵類	2,814	3.9	1.0	3,288	5.4	1.0
野菜・海藻	7,764	0.5	2.8	9,203	3.8	2.9
果物	2,631	6.1	0.9	3,039	8.1	1.0
油脂・調味料	2,654	2.5	1.0	3,129	4.2	1.0
菓子類	5,030	7.7	1.8	5,781	9.5	1.8
調理食品	7,803	-4.3	2.8	8,349	-9.3	2.7
飲料	3,466	10.3	1.2	3,714	4.5	1.2
酒類	2,815	-7.3	1.0	3,152	-14.8	1.0
外食	11,141	13.9	4.0	11,182	1.4	3.6
住 居	19,213	2.5	6.9	21,720	9.4	6.9
家賃代	7,158	28.7	2.6	6,425	78.5	2.0
設備修繕・維持	12,054	-8.4	4.3	15,295	-5.8	4.9
光 熱 ・ 水 道	22,806	4.2	8.2	25,596	3.9	8.1
電気代	10,606	8.2	3.8	11,660	4.4	3.7
ガス代	4,763	-4.9	1.7	5,287	0.7	1.7
他の光熱	2,310	6.7	0.8	2,545	4.7	0.8
上下水道料	5,127	-3.2	1.8	6,104	-2.1	1.9
家具・家事用品	10,422	27.3	3.7	12,761	46.6	4.1
家庭用耐久財	4,087	33.2	1.5	5,054	70.1	1.6
室内装備・装飾品	946	26.5	0.3	1,176	62.4	0.4
寝具類	955	101.4	0.3	1,196	102.3	0.4
家事雑貨	1,815	18.8	0.6	2,224	29.0	0.7
家事用消耗品	2,011	9.7	0.7	2,354	9.8	0.7
家事サービス	609	20.7	0.2	757	41.7	0.2
被服及び履物	9,657	-11.3	3.5	11,710	-7.7	3.7
和服	190	-78.5	0.1	245	-78.7	0.1
洋服	3,560	-8.3	1.3	4,410	-1.2	1.4
シャツ・セーター類	2,101	3.9	0.8	2,502	4.1	0.8
下着類	861	11.1	0.3	1,033	12.2	0.3
生地・糸類	129	—	0.0	155	—	0.0
他の被服	797	6.3	0.3	907	10.9	0.3
履物類	1,197	-13.0	0.4	1,421	-2.9	0.5
被服関連サービス	823	-24.5	0.3	1,037	-23.9	0.3
保 健 医 療	9,968	12.2	3.6	11,178	18.3	3.6
医薬品	1,631	21.5	0.6	1,746	10.5	0.6
健康保持用摂取品	749	—	0.3	785	—	0.2
保健医療用品・器具	1,879	19.5	0.7	2,381	36.9	0.8
保健医療サービス	5,709	13.8	2.0	6,266	22.2	2.0
交 通 ・ 通 信	38,256	1.3	13.7	37,682	-16.9	12.0
交通	2,860	-22.4	1.0	3,299	-20.5	1.0
自動車等関係費	24,359	2.3	8.7	21,767	-26.2	6.9
通信	11,037	7.8	4.0	12,616	9.2	4.0
教 育	7,982	3.2	2.9	10,468	4.8	3.3
教 養 娛 楽	26,463	2.0	9.5	29,715	-0.6	9.4
教養娯楽用耐久財	3,574	63.3	1.3	4,279	53.4	1.4
教養娯楽用品	4,751	-10.3	1.7	5,546	-9.3	1.8
書籍・他の印刷物	4,072	4.2	1.5	4,373	3.1	1.4
教養娯楽サービス	14,065	-1.4	5.0	15,516	-5.2	4.9
その他の消費支出	70,546	-17.0	25.3	81,598	-20.5	25.9
諸雑費	19,480	-15.6	7.0	21,780	-20.1	6.9
こづかい	24,477	-18.0	8.8	31,948	-17.5	10.2
交際費	23,527	-10.2	8.4	24,771	-15.4	7.9
仕送り金	3,062	-50.7	1.1	3,099	-60.6	1.0

(注) 「その他の消費支出」、こづかい(使途不明)、交際費、仕送り金の増減率の実質化には、消費者物価指数(持家の所属家賃を除く総合)を用いた。

(3) 消費支出の費目別構成比

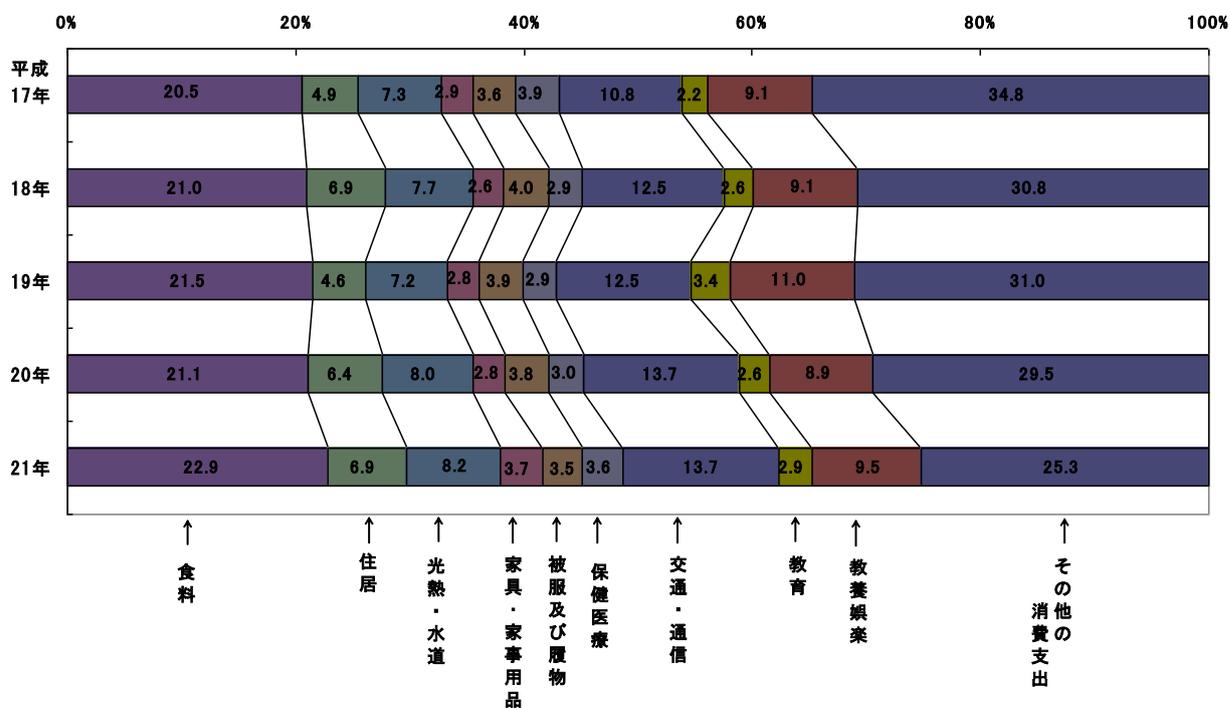
—食料、住居、教育、教養娯楽が上昇、被服及び履物が低下—

平成 21 年の富山市総世帯の消費支出の費目別構成比をみると、「食料」の占める割合（エンゲル係数）は、野菜・海藻や菓子類の増加などにより、前年に比べ 1.8 ポイント上昇して 22.9% となった。

また、「家具・家事用品」（3.7%）が 0.9 ポイント、「教養娯楽」（9.5%）及び「保健医療」（3.6%）が 0.6 ポイント、「住居」（6.9%）が 0.5 ポイント、「教育」（2.9%）が 0.3 ポイント、「光熱・水道」（8.2%）が 0.2 ポイントそれぞれ上昇した。

一方、「被服及び履物」（3.5%）が 0.3 ポイント、「その他の消費支出」（25.3%）が 4.2 ポイントそれぞれ低下した。なお、「交通・通信」（13.7%）は前年と変わらなかった。

図 2 消費支出費目別構成比の推移（富山市総世帯）



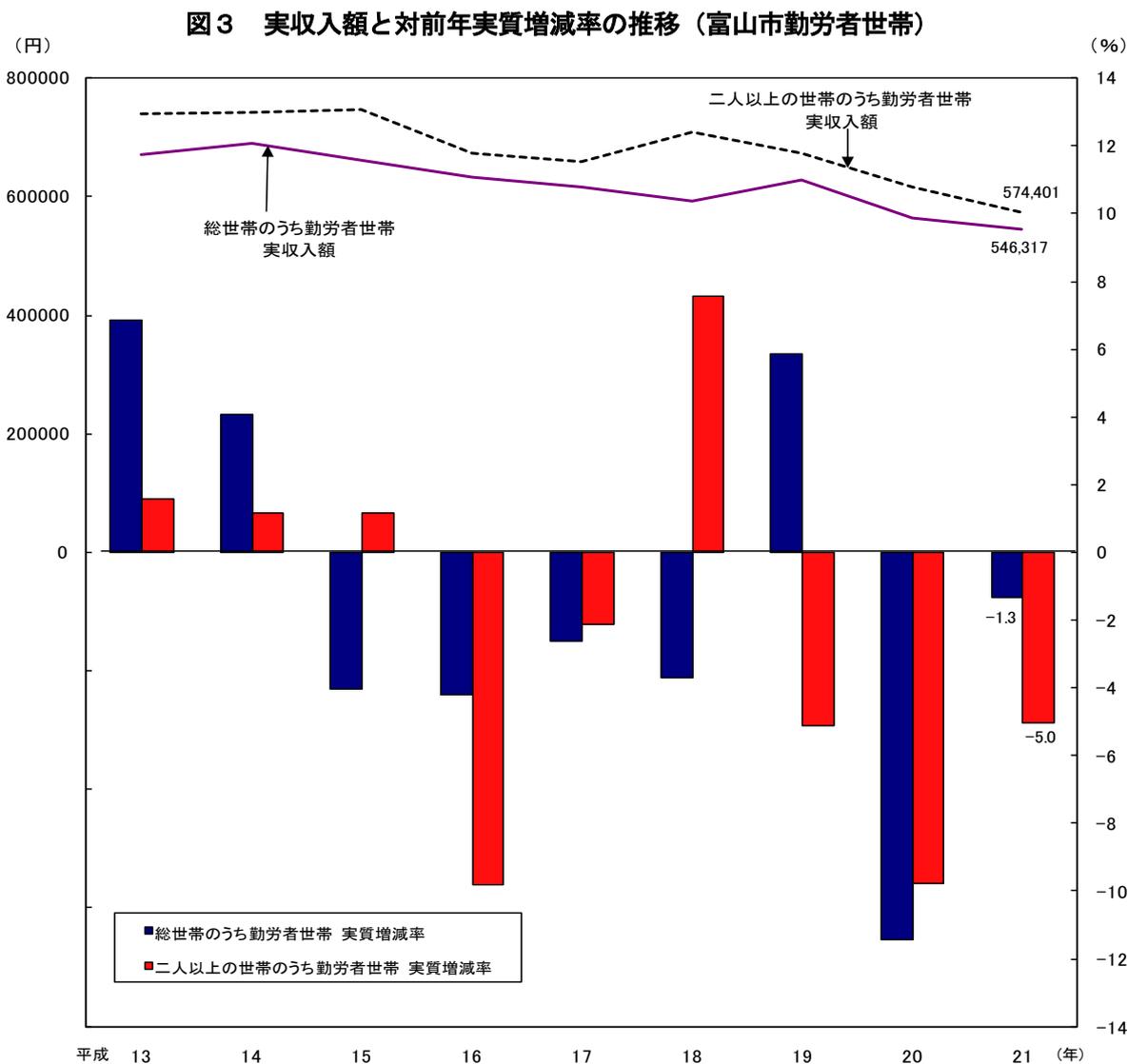
2 総世帯のうち勤労者世帯の家計

(1) 実収入の概況

—実収入は、対前年比実質1.3%の減少（全国は3.1%の減少）—

平成21年の富山市総世帯のうち勤労者世帯の平均世帯人員3.21人、世帯主の平均年齢46.6歳（全国平均 平均世帯人員2.79人、世帯主の平均年齢45.2歳）の実収入は、1世帯当たり1か月平均546,317円（全国平均464,649円）で、前年に比べ名目3.2%の減少（全国平均4.6%減少）、実質1.3%の減少（全国平均3.1%減少）となり、名目、実質とも2年連続の減少となった。

二人以上の世帯のうち勤労者世帯の平均世帯人員3.73人、世帯主の平均年齢46.5歳（全国平均平均世帯人員3.43人、世帯主の平均年齢47.1歳）の実収入は、1世帯当たり1か月平均574,401円（全国平均518,226円）で、前年に比べ、名目6.8%の減少（全国平均3.0%減少）、実質5.0%の減少（全国平均1.5%減少）となり、名目、実質とも3年連続の減少となった。

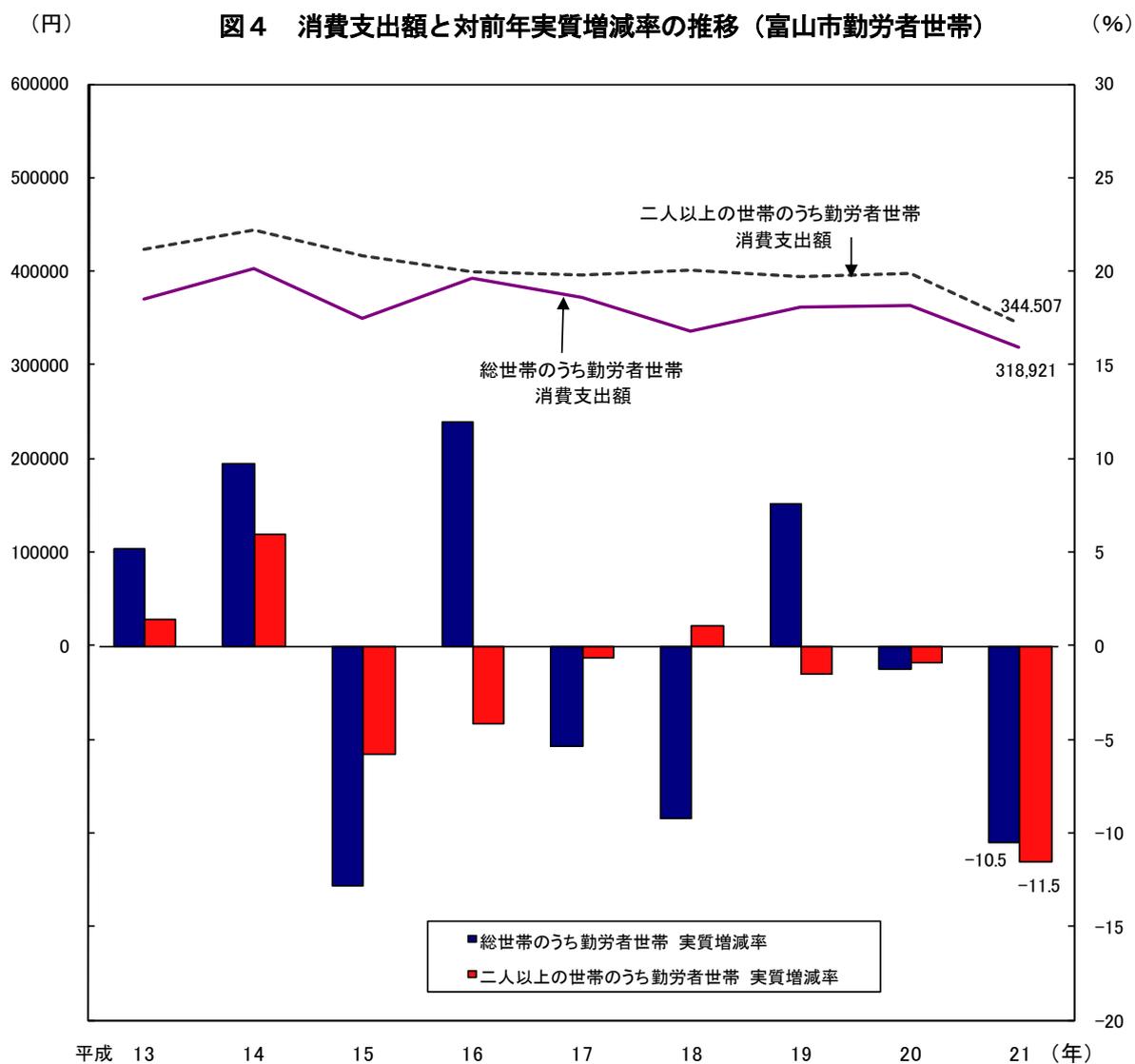


(2) 消費支出の概況

—消費支出は、対前年実質10.5%の減少（全国は1.2%の減少）—

平成21年の富山市総世帯のうち勤労者世帯の消費支出は、1世帯当たり1か月平均318,921円（全国平均283,685円）で、前年に比べ名目12.2%の減少（全国平均2.7%の減少）、実質10.5%の減少（全国平均1.2%の減少）となった。

二人以上の世帯のうち勤労者世帯の消費支出は、1世帯当たり1か月平均344,507円（全国平均319,060円）で、前年に比べ名目13.2%の減少（全国平均1.8%の減少）、実質11.5%の減少（全国平均0.3%の減少）となった。



3 全国からみた富山市の特徴（二人以上の世帯）

(1) 消費支出の概況

富山市の二人以上の世帯の1世帯当たり1か月の消費支出を全国と比較すると、平成21年は314,574円で前年(342,736円)に比べ減少し、全国13位(都道府県庁所在市別順位)となっている。

消費支出の内訳を、平成19~21年平均で全国と比べると、その他の消費支出のうち、こづかい(使途不明)が全国を大きく上回っている(図5)。

また、全国の構成比を100として富山市の構成比をみると、その他の消費支出の割合だけが全国より高く、他の費目は、ほとんどが全国を下回っている(図6、図7)。

図5 消費支出の費目別支出金額（二人以上の世帯、用途分類、平成19~21年平均）

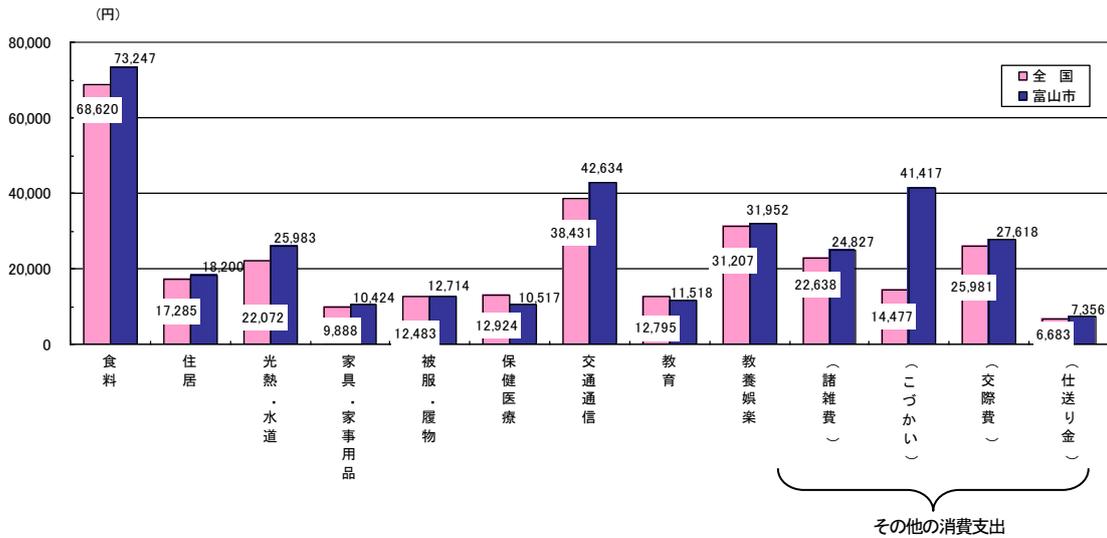


図6 消費支出の費目別構成比（二人以上の世帯、用途分類、平成19~21年平均）

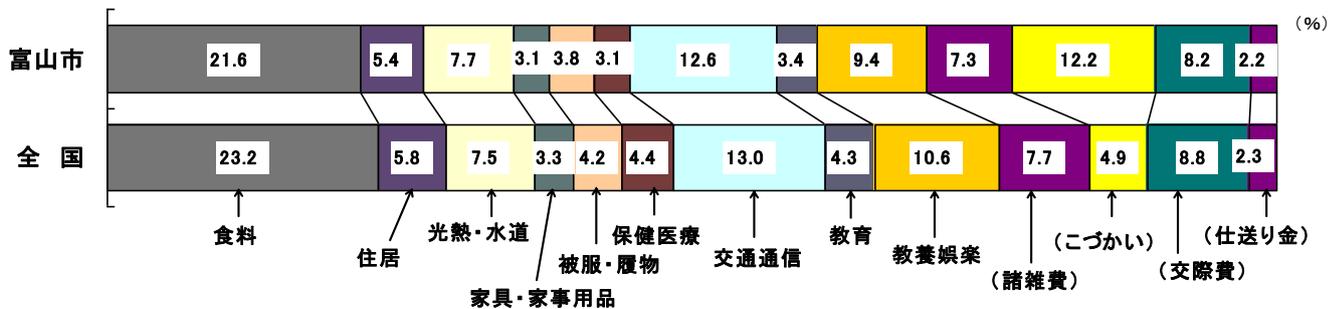
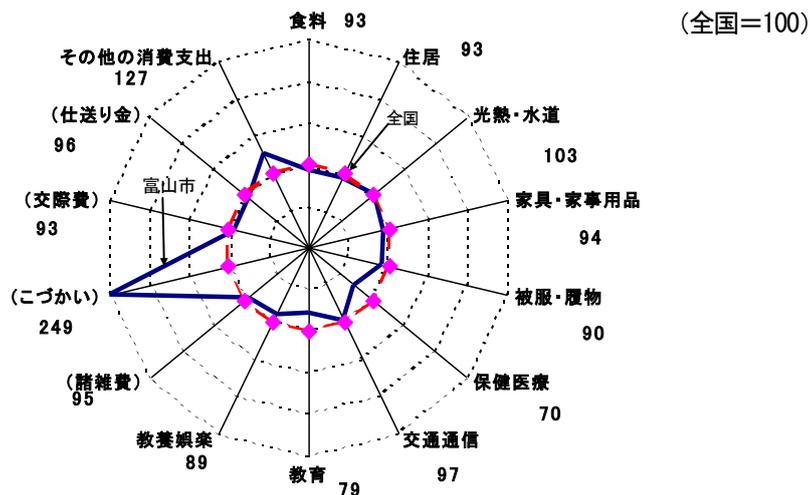


図7 消費支出の費目別構成比指数（二人以上の世帯、用途分類、平成19~21年平均）



(2) 主な費目の特徴

主な費目について富山市の家計の特徴を見ると、次のようになる。なお、特に「富山県」の記載がない限り、全国順位は都道府県庁所在市別順位である。

① 食料費

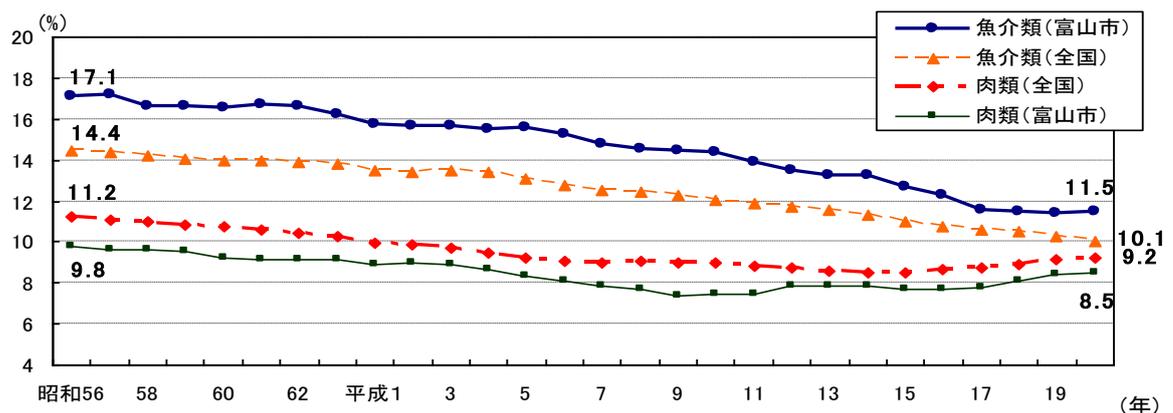
富山市の魚介類への1世帯当たり年間の支出金額は、常に全国のトップクラスに位置する。平成19～21年平均では、ぶり、いか、魚介の漬物（みそ漬、昆布締め等）が全国1位となっている（表2）。特にぶりや魚介の漬物は単年で見ても全国1位を保持しており、ぶりは38年連続、魚介の漬物は21年連続して全国1位である。

富山湾を臨み、豊富な水産資源に恵まれ、新鮮な食材が手に入りやすいことに加え、主として保存を目的として工夫されてきた多様な食べ方が地域に根づいていることなども背景にあると考えられる。魚は富山市の食生活に密接に関わっているといえる。食料費に占める魚介類と肉類の割合を全国比較すると、富山市では魚介類の割合が全国平均を上回り、反対に肉類は全国平均を下回っている（図13）。

表2 食品における富山市民の嗜好（二人以上の世帯、品目分類）

		平成21年	平成19～21年平均
支出金額	1位	ぶり いか 魚介の漬物(みそ漬、昆布締め等) こんぶ オレンジ	もち ぶり いか 魚介の漬物(みそ漬、昆布締め等) こんぶ コーヒー飲料
	2位	さしみ盛り合わせ えび 他の貝(つづ貝、蛤など) カツレツ だいこん漬 もち チョコレート 生しいたけ ばれいしょ キウイフルーツ 他の野菜・海藻加工品のその他	他の貝(つづ貝、蛤等) だいこん漬 ソーセージ 生しいたけ オレンジ チョコレート カツレツ コーヒー・ココア
	3位	はくさい漬	さしみ盛り合わせ えび かまぼこ なす たけのこ こんぶつくだ煮 はくさい漬 ばれいしょ 天ぷら・フライ ゼリー
	45位	かつお 酢	鶏肉 わかめ
	46位	食用油	かつお節・削り節 ケチャップ 干しのり
	47位	かつお節・削り節 弁当 焼ちゅう	マヨネーズ・ドレッシング 食用油
購入数量	1位	ぶり もち パナナ オレンジ キウイフルーツ	もち ぶり ハム こんぶ オレンジ
	2位	こんぶ いか さしみ盛り合わせ 豆腐 だいこん漬 こんぶつくだ煮	さしみ盛り合わせ だいこん漬 豆腐 たけのこ キウイフルーツ 他の果物
	3位	たけのこ	いか えび ソーセージ こんぶつくだ煮 みそ
	45位		酢 マヨネーズ・ドレッシング
	46位	鶏肉 かつお節・削り節	鶏肉 かつお節・削り節 食用油
	47位	焼ちゅう	—

図8 食料費に占める魚介類と肉類の割合（二人以上の世帯、用途分類、3年移動平均）

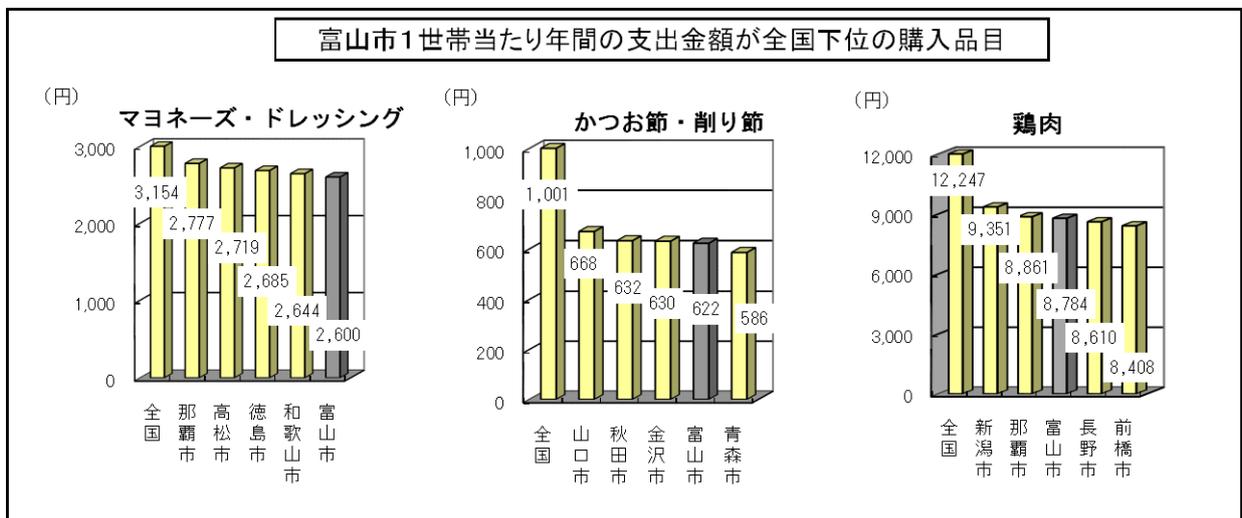
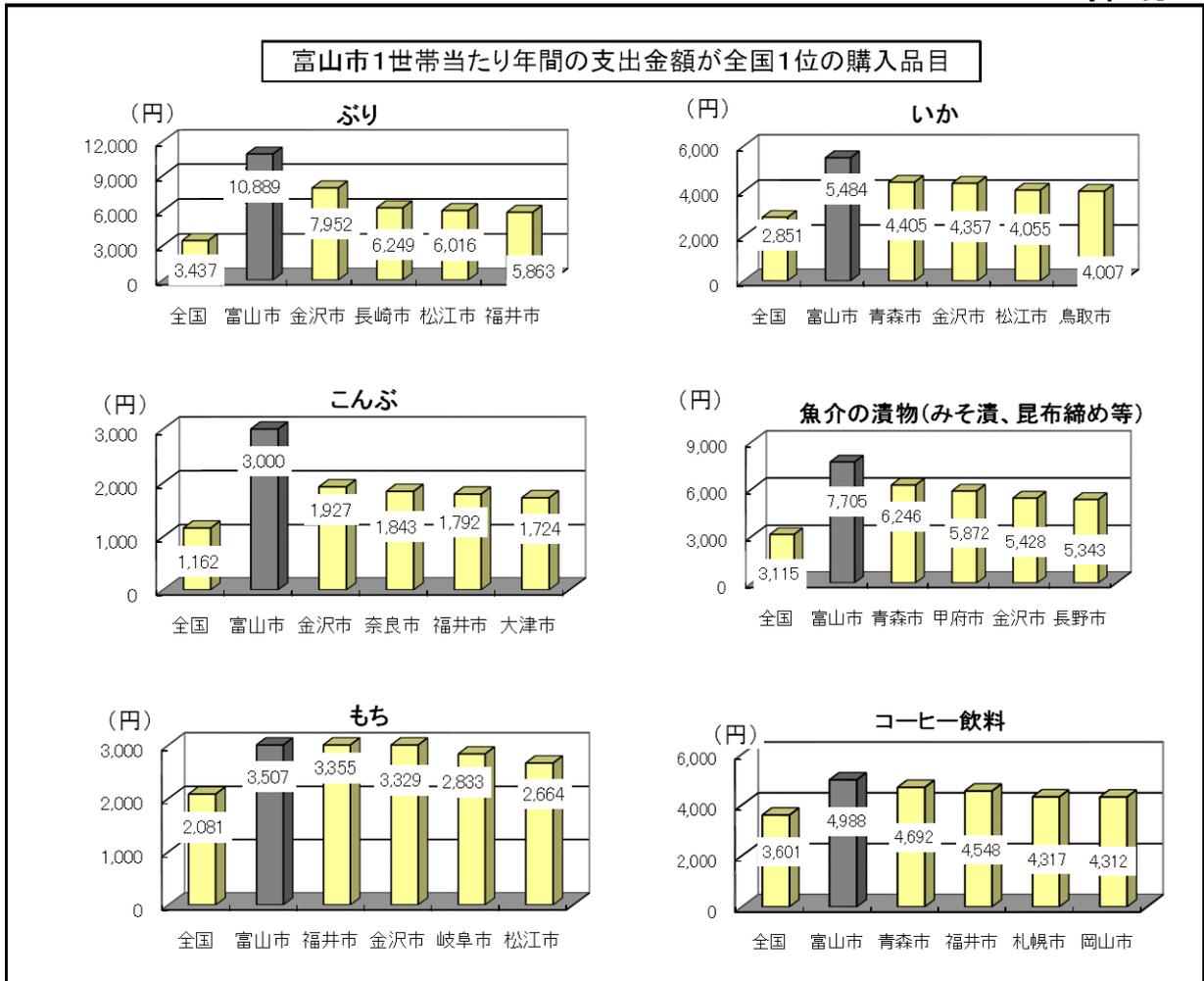


魚介類のほか、平成 19～21 年平均の 1 世帯当たり年間の支出金額や購入数量が多いものとして、こんぶ、もち、コーヒー飲料がある。とりわけ、こんぶの支出金額は富山市が突出しており、単年でみても、50 年連続で全国 1 位となっている（表 2、図 14）。

また、購入数量が上位で、支出金額が下位のものに豆腐、卵があり、低価格のものを多く購入していると考えられる（豆腐：購入数量 全国 2 位、支出金額 全国 40 位。卵：購入数量 全国 6 位、支出金額 全国 43 位。）。

図 9 都道府県庁所在市別ランキング（二人以上の世帯、品目分類、平成 19～21 年平均）

単位：円



② 住居費と光熱・水道費 (平成 19～21 年平均)

住居費は、家賃地代と設備修繕・維持費に分類される。家賃地代の 1 世帯当たり 1 か月間の支出金額は、5,047 円と低く、全国 45 位である。一方、設備修繕・維持費の 1 世帯当たり 1 か月間の支出金額は、13,153 円と高く、全国 1 位となっている(表 3)。これらは、持ち家比率が高い(富山県 79.1%、全国 1 位:総務省「国勢調査」(平成 17 年))ためと考えられる。

また、光熱・水道費の 1 世帯当たり 1 か月間の支出金額は、表 4 のとおり全国平均を上回っている。特に、灯油等の「他の光熱」の 1 世帯当たり 1 か月間の支出金額は、全国平均の 2 倍以上となっており、寒冷地であることが影響していると考えられる。

表 3 1世帯当たり1か月間の住居費
(二人以上の世帯、用途分類、平成 19～21 年平均)

単位：円

	住居費		うち 家賃地代		うち 設備修繕・維持	
	月平均額	順位	月平均額	順位	月平均額	順位
富山市	18,200	25	5,047	45	13,153	1
全国	17,285	—	9,817	—	7,468	—

注) 土地・家屋など不動産の購入金(財産購入)は、消費支出には計上されず、「実支出以外の支払」として預貯金等とともに集計されるので、住居費には含まれない。

表 4 1世帯当たり1か月間の光熱・水道費
(二人以上の世帯、用途分類、平成 19～21 年平均)

単位：円

	光熱・水道費		うち 電気代		うち 他の光熱 (灯油等)		うち 上下水道料	
	月平均額	順位	月平均額	順位	月平均額	順位	月平均額	順位
富山市	25,983	4	11,279	3	3,474	6	6,012	11
全国	22,072	—	9,560	—	1,672	—	5,054	—

③ 交通費と自動車等関係費（平成19～21年平均）

交通費（鉄道、バス、タクシー、航空機などの運賃等）の1世帯当たり年間の支出金額は、48,973円、全国32位と低い（表6）。一方、自動車等関係費については、1世帯当たり年間の支出金額は315,738円で全国7位であり、また、自動車等維持費のうちガソリン代の1世帯当たり年間の支出金額は、100,425円で全国2位となっている（表5、6）。

自動車等関係費が比較的高いのは、自家用車の保有台数が多い（富山県1世帯当たり1.72台、全国2位：国土交通省 北陸信越運輸局 富山運輸支局「富山県運輸概況」(平成20年度)）こと、道路整備率が高い（富山県74.5%、全国1位：国土交通省「道路統計年報」(平成20年)）ことなどにより、自家用車が通勤、買い物、レジャー等に多く用いられるためと考えられる。また、自家用車の保有台数は多いが、駐車場借料の支出金額は少ない結果となっている（表6）。これは、持ち家比率が高く（P19 4行目）、持ち家の1住宅当たりの敷地面積が広い（富山県394㎡、全国5位：総務省「統計でみる都道府県のすがた2010」）ことから、自宅の敷地に自家用車を駐車する世帯が多いためと考えられる。

表5 1世帯当たり年間の交通費及び自動車等関係費
(二人以上の世帯、品目分類、平成19～21年平均)

単位：円

	交通費		自動車等関係費		うち自動車等維持費	
	金額	順位	金額	順位	金額	順位
富山市	48,973	32	315,738	7	221,843	5
全国	70,727	—	249,851	—	185,451	—

表6 1世帯当たり年間の自動車等維持費
(二人以上の世帯、品目分類、平成19～21年平均)

単位：円

	自動車等維持費							
	ガソリン		自賠責自動車保険料		任意自動車保険料		年極・月極駐車場借料	
	金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位
富山市	100,425	2	9,451	6	39,158	11	13,639	38
全国	71,317	—	7,067	—	33,224	—	22,440	—

④ その他の消費支出（平成19～21年平均）

「その他の消費支出」は、諸雑費、こづかい(使途不明)、交際費及び仕送り金の4項目からなる。そのうち、世帯主や世帯員へのこづかい(使途不明)の1世帯当たり年間の支出金額は497,007円と高く全国1位であり、全国平均を大きく上回っている。

これらには、1世帯当たりの有業人員が多い(1.47人、全国7位(「家計調査」(平成21年)) ことや、勤労者世帯の1世帯当たり1か月間の実収入が全国平均より高い(P23表9) ことが影響していると考えられる。

なお、内訳で全国上位の品目をみると、温泉・銭湯入浴料 全国1位(富山市 5,009円、全国平均2,474円。)、乳液 全国2位(富山市2,928円、全国平均1,558円)、他の冠婚葬祭費(七五三、成人式費用等) 全国2位(富山市9,782円、全国平均2,848円)、他の負担費(町内会費、同窓会費等) 全国2位(富山市21,623円、全国平均14,621円) などがある。

**表7 1世帯当たり年間のその他の消費支出
(二人以上の世帯、品目分類、平成19～21年平均)**

単位：円

	諸雑費		温泉・銭湯入浴料		乳液		他の冠婚葬祭費		こづかい (使途不明)		交際費		他の負担費	
	金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位
富山市	304,174	12	5,009	1	2,928	2	9,782	2	497,007	1	196,712	21	21,623	2
全国	275,668	—	2,474	—	1,558	—	2,848	—	173,727	—	194,438	—	14,621	—

⑤ 財・サービス区分でみた支出（平成19～21年平均）

財・サービス区分は、消費支出を財(商品)とサービスに分けて分類したもので、品目分類の結果から組み替え集計したものである(こづかい(使途不明)、贈与金、他の交際費及び仕送り金を除く)。財(商品)はさらに、耐久財・半耐久財・非耐久財に区分され、耐久財は予想耐用年数が1年以上かつ比較的高額なもの、半耐久財は予想耐用年数は1年以上だが耐久財ほど高額ではないもの、非耐久財は予想耐用年数が1年未満のものという考え方による。

財(商品)への支出内訳をみると、耐久財の1世帯当たり年間の支出は268,578円で全国5位、財・サービス支出に占める割合でも8.2%で全国5位であり、全国上位である。1世帯当たりの住宅延面積が広い(富山県146.3㎡、全国1位:総務省「国勢調査」(平成17年)) ことなどから、耐久財の購入が多いと考えられる。

一方、サービスについては、1世帯当たり年間の支出は1,283,773円で全国30位だが、財・サービス支出に占める割合は39.2%で全国46位と低くなっている(表8)。

表8 1世帯当たり年間の財・サービス区分別支出金額
(二人以上の世帯、平成19~21年平均)

単位：円

	財・サービス支出		うち 耐久財		うち サービス	
	金額	順位	金額	順位	金額	順位
富山市	3,278,881	11	268,578	5	1,283,773	30
全国	3,097,446	—	198,800	—	1,319,532	—

単位：%

耐久財の 支出割合		サービスの 支出割合	
割合	順位	割合	順位
8.2	5	39.2	46
6.4	—	42.6	—

注) 財・サービス支出は、品目分類を再分類して集計しており、こづかい(使途不明)、贈与金、他の交際費及び仕送り金は含まれていない。

4 全国からみた富山市の特徴（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

（1）実収入の概況

—実収入は、全国7位—

平成 21 年の富山市の二人以上の世帯のうち勤労者世帯の実収入は、1 世帯当たり 1 か月平均で 574,401 円となり、全国 7 位(都道府県庁所在市別順位、以下同じ) となった。勤め先収入において、世帯主収入、配偶者収入、他の世帯員収入がいずれも減少したことから、実収入は対前年で実質 5.0% 減少している。

実収入の内訳を全国と比較すると、勤め先収入のうち、世帯主の配偶者の収入、他の世帯員収入が全国を大きく上回っていることに加え、他の経常収入の中の公的年金給付も同じく全国を上回っている。その要因として、1 世帯当たりの有業人員が 1.75 人、年金受給対象である 65 歳以上の人員は 0.32 人（ともに「家計調査」（平成 21 年））と、全国平均に比べて多いことが考えられる（表 9、表 10、図 10）。

表 9 1 世帯あたり 1 か月間の主な収入（二人以上の世帯のうち勤労者世帯、平成 21 年）

単位：円

	実収入	うち勤め先収入			他の経常収入	
		世帯主収入	配偶者収入	他の世帯員収入		うち社会 保障給付
富山市	574,401	408,700	73,513	35,984	38,045	36,529 (33,801)
全 国	518,226	419,269	56,517	9,153	20,187	19,086 (15,580)

注) () 書きは、社会保障給付のうち公的年金

表 10 世帯構成（二人以上の世帯のうち勤労者世帯、平成 21 年）

単位：人、歳

	世帯人員	有業人員	世帯主の年齢	65歳以上人員
富山市	3.73	1.75	46.5	0.32
全 国	3.43	1.67	47.1	0.20

図 10 実収入に占める構成比（二人以上の世帯のうち勤労者世帯、平成 21 年）

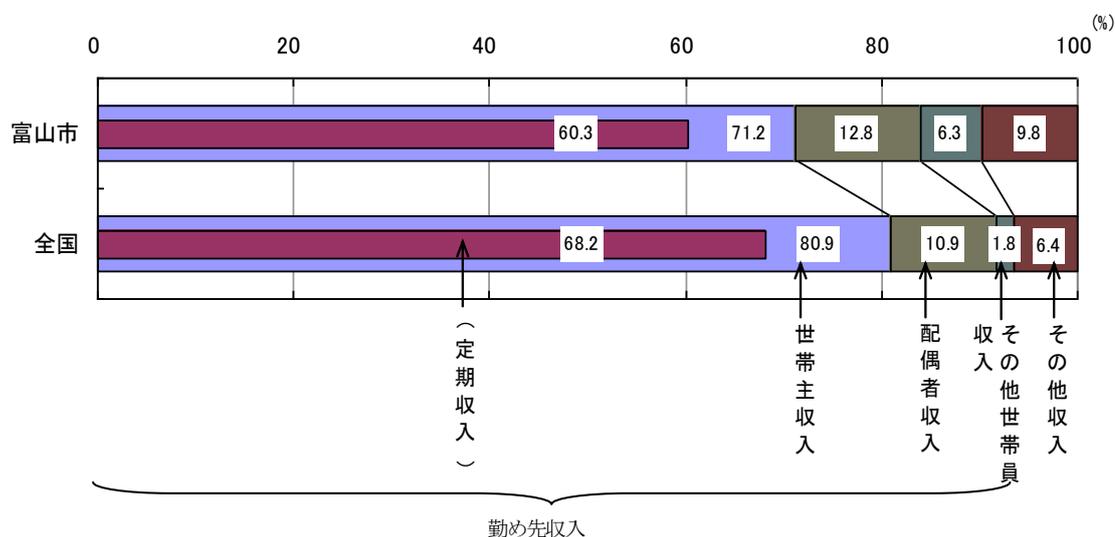
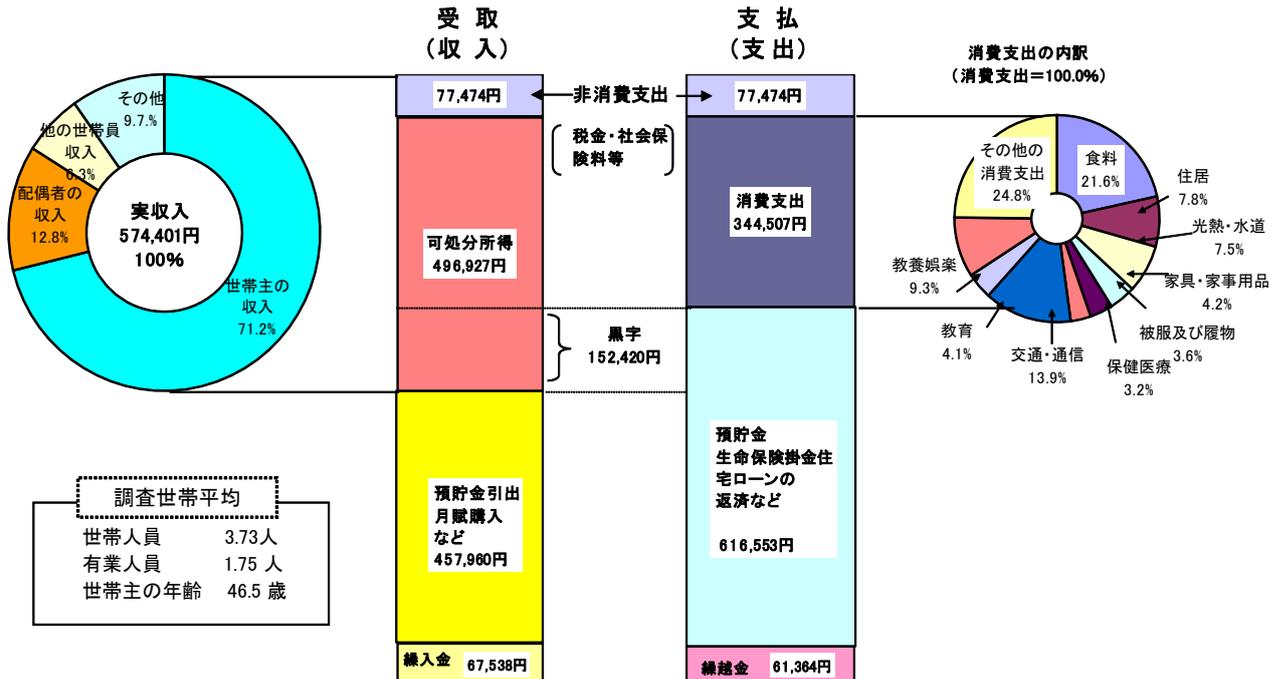


図11 家計収支バランス（富山市 二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

－1世帯当たり1か月の収入と支出 平成21年－



(2) 可処分所得の概況

－可処分所得は、全国3位－

平成21年の富山市の二人以上の世帯のうち勤労者世帯の可処分所得は1か月平均496,927円(全国平均427,912円)で、前年に比べ、名目5.7%の減少(全国平均3.4%の減少)、実質3.9%の減少(全国平均1.9%の減少)となった。(表12)。

(3) 消費支出の概況

－消費支出は、全国10位－

ア 消費支出

平成21年の富山市の二人以上の世帯のうち勤労者世帯の消費支出は1か月平均344,507円(全国平均319,060円)で、前年に比べ、名目13.2%の減少(全国平均1.8%の減少)、実質11.5%の減少(全国平均0.3%の減少)となった。(図17)

イ 非消費支出

税金、社会保険料などの非消費支出は1か月平均77,474円(全国平均90,314円)で、前年に比べ名目13.2%の減少(全国平均1.3%減少)となった。(図17)

(4) 平均消費性向、黒字率、平均貯蓄率等

－黒字は、全国4位－

平成21年の富山市の二人以上の世帯のうち勤労者世帯の平均消費性向は69.3%(全国平均74.6%)となり、前年より6.0ポイント減少し、全国41位となった。消費に回らない残りは、貯蓄と住宅ローンの返済に向けられ、616,553円(全国平均514,683円)となっている。

黒字は152,420円(全国平均108,852円)で全国4位となり、黒字率は30.7%(全国平均25.4%)で全国7位となり前年より6.0ポイント増加した。(図17)

黒字のうち貯蓄純増は114,498円(全国平均69,519円)で全国4位となり、平均貯蓄率は23.0%(全国平均16.2%)で全国7位となり、前年より4.9ポイント増加した。

Ⅲ 富山市の貯蓄・負債（二人以上の世帯）

1 貯蓄の状況

(1) 二人以上の世帯の貯蓄現在高は1,578万円

平成21年の富山市の二人以上の世帯の1世帯当たり貯蓄現在高は1,578万円（全国平均1,638万円）となった。年間収入は668万円（全国平均630万円）で、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は、236.2%（全国平均260.0%）となった。

このうち勤労者世帯についてみると、1世帯当たり貯蓄現在高は1,163万円（全国平均1,203万円）となった。年間収入は696万円（全国平均709万円）で、貯蓄年収比は167.1%（全国平均169.7%）となった（表1）。

表1 貯蓄現在高及び年間収入（二人以上の世帯、平成21年）

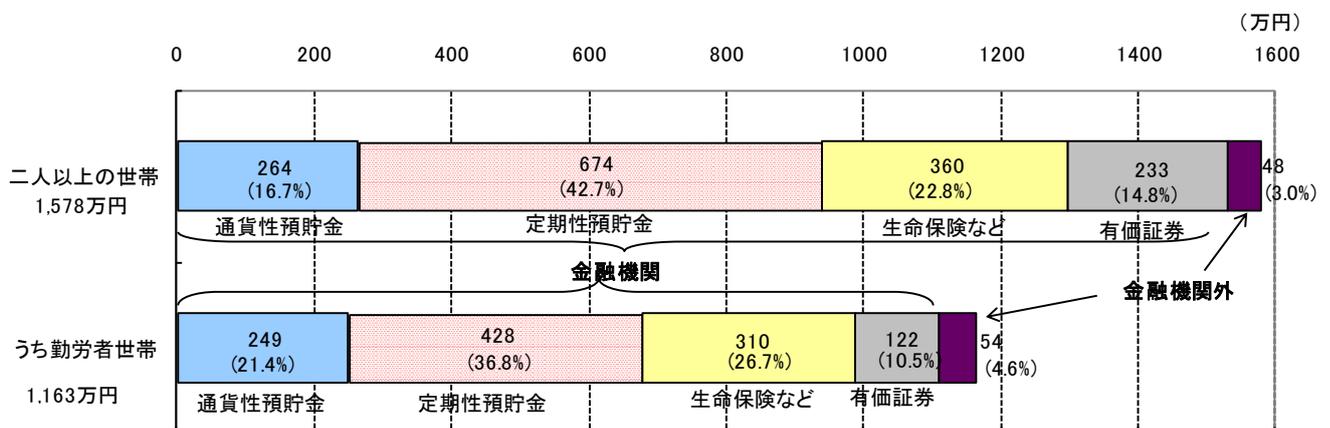
項目	二人以上の世帯		うち勤労者世帯	
	富山市	全国	富山市	全国
世帯人員（人）	3.40	3.11	3.78	3.43
有業人員（人）	1.48	1.37	1.76	1.67
世帯主の年齢（歳）	55.3	55.7	46.7	47.0
貯蓄現在高（万円）	1,578	1,638	1,163	1,203
年間収入（万円）	668	630	696	709
貯蓄年収比（%）	236.2	260.0	167.1	169.7

(2) 定期性預貯金の占める割合が高い

富山市の二人以上の世帯について、1世帯当たり貯蓄現在高を貯蓄の種類別にみると、定期性預貯金が674万円（貯蓄現在高に占める割合42.7%）と最も多く、次いで「生命保険など」が360万円（同22.8%）、通貨性預貯金が264万円（同16.7%）、有価証券が233万円（同14.8%）、金融機関外が48万円（同3.0%）となっている。

このうち勤労者世帯についてみると、定期性預貯金が428万円（同36.8%）、次いで「生命保険など」が310万円（同26.7%）、通貨性預貯金が249万円（同21.4%）、有価証券が122万円（同10.5%）、金融機関外が54万円（同4.6%）となっている（図1）。

図1 貯蓄の種類別現在高及び構成比（富山市二人以上の世帯、平成21年）



2 負債の状況

(1) 二人以上の世帯の負債現在高は436万円

富山市の二人以上の世帯の1世帯当たり負債現在高は436万円（全国平均479万円）となった。負債の種類別にみると、住宅・土地のための負債が385万円、負債現在高に占める割合が88.3%と最も多い。

このうち勤労者世帯についてみると、1世帯当たり負債現在高は549万円（全国平均643万円）となった。負債の種類別では、住宅・土地のための負債が515万円、負債現在高に占める割合が93.8%と最も多くなっている。

負債年収比（負債現在高の年間収入に対する比）をみると、二人以上の世帯は65.3%（全国平均76.0%）、このうち勤労者世帯は78.9%（全国平均90.7%）となっている（表2、図2）。

表2 負債現在高及び年間収入（二人以上の世帯、平成21年）

項目	負債現在高 (1) (万円)	住宅・土地 のための 負債 (2) (万円)	負債現在高 に占める 住宅・土地 のための 負債の割合 (2)/(1) (%)	年間収入 (3) (万円)	負債年収比		
					負債現在高 (1)/(3) (%)	住宅・土地 のための 負債 (2)/(3) (%)	
二人以上の世帯	富山市	436	385	88.3	668	65.3	57.6
	全国	479	429	89.6	630	76.0	68.1
うち勤労者世帯	富山市	549	515	93.8	696	78.9	74.0
	全国	643	596	92.7	709	90.7	84.1

図2 負債の種類別現在高及び構成比（富山市二人以上の世帯、平成21年）

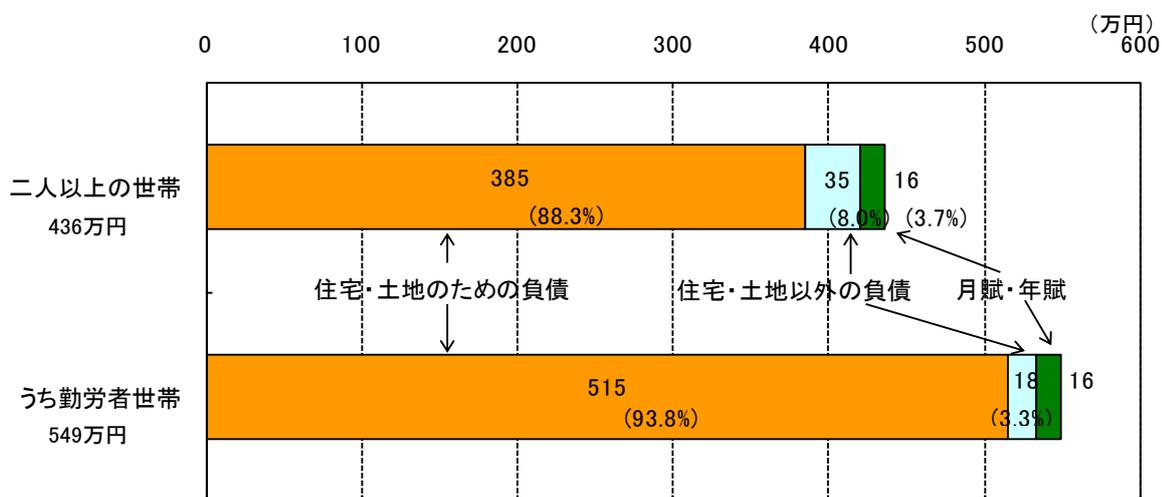


表3 貯蓄・負債 都道府県庁所在市別ランキング（二人以上の世帯、平成21年）

都道府県 所在都市	二人以上の世帯				うち勤労者世帯			
	貯蓄現在高(万円)	順位	負債現在高(万円)	順位	貯蓄現在高(万円)	順位	負債現在高(万円)	順位
1 札幌市	1,223	38	329	46	1,048	32	440	43
2 青森市	939	46	420	29	662	45	626	21
3 盛岡市	1,552	29	426	26	1,280	20	568	27
4 仙台市	1,374	34	413	30	1,190	25	530	31
5 秋田市	1,149	43	591	7	883	40	887	4
6 山形市	1,166	42	579	9	734	44	793	5
7 福島市	1,448	31	656	3	1,228	22	924	2
8 水戸市	1,656	23	387	35	1,177	28	524	33
9 宇都宮市	1,826	13	610	6	1,366	17	755	9
10 前橋市	1,861	10	375	38	1,713	2	437	44
11 さいたま市	1,779	18	556	14	1,391	13	671	16
12 千葉市	2,190	1	536	15	1,445	9	743	10
13 東京都区	2,181	2	646	4	1,529	6	741	11
14 横浜市	1,817	14	683	2	1,250	21	1,042	1
15 新潟市	1,771	19	528	17	1,421	12	626	21
16 富山市	1,578	27	436	24	1,163	30	549	30
17 金沢市	1,909	7	557	12	1,575	5	614	23
18 福井市	1,978	5	358	40	1,613	4	464	41
19 甲府市	1,889	8	422	27	1,389	14	481	35
20 長野市	1,860	11	380	36	1,702	3	474	38
21 岐阜市	1,878	9	503	19	1,736	1	641	20
22 静岡市	1,700	22	421	28	1,165	29	474	38
23 名古屋市	2,129	3	400	33	1,445	9	572	26
24 津市	1,798	16	464	22	1,459	8	662	18
25 大津市	1,737	21	584	8	1,323	18	777	8
26 京都市	1,645	24	562	11	1,207	24	793	5
27 大阪市	1,801	15	404	32	1,188	26	558	28
28 神戸市	2,019	4	557	12	1,471	7	922	3
29 奈良市	1,938	6	474	21	1,439	11	694	13
30 和歌山市	1,580	26	348	42	1,146	31	525	32
31 鳥取市	1,748	20	354	41	1,220	23	342	47
32 松江市	1,564	28	439	23	1,013	34	592	25
33 岡山市	1,439	32	620	5	1,038	33	691	14
34 広島市	1,591	25	510	18	1,374	15	650	19
35 山口市	1,340	35	567	10	970	35	686	15
36 徳島市	1,785	17	339	44	1,374	15	477	37
37 高松市	1,836	12	333	45	1,293	19	494	34
38 松山市	1,481	30	380	36	1,181	27	556	29
39 高知市	1,384	33	409	31	888	38	459	42
40 福岡市	1,187	40	494	20	774	43	665	17
41 佐賀市	1,328	36	391	34	942	36	481	35
42 長崎市	1,180	41	429	25	878	41	611	24
43 熊本市	1,279	37	533	16	909	37	705	12
44 大分市	1,202	39	289	47	830	42	351	46
45 宮崎市	1,007	45	374	39	640	46	424	45
46 鹿児島市	1,139	44	723	1	887	39	791	7
47 那覇市	702	47	345	43	480	47	469	40
全国平均	1,638		479		1,203		643	